

鈴鹿市人権擁護に関する審議会 令和５年度第３回会議 議事概要

【日 時】 令和６年３月14日(木) 午後２時から午後４時まで

【場 所】 鈴鹿市役所 本館12階 1201会議室

【出席委員】 伊藤 裕、岩間 啓悟、安村 とみ子、喜田 園子、山中 秀志、
田中 治尋、中野 千鶴子、吉原 勝範(８名)
(欠席)木之内 秀彦、南川 久美子

【事 務 局】 地域振興部長 竹下 直哉

地域振興部次長 新田 剛

人権政策課長 谷本 吉隆

人権政策課 副参事兼啓発推進グループリーダー 山中 尚美

人権政策課 啓発推進グループ 西村 翔

人権政策課 啓発推進グループ 稲垣 萌子

【議事概要】

(事務局)

開会を宣言し、配布資料(事項書に記載された８点の資料)が手元に揃っているか、確認を行う。

事項１ 開催にあたって

(１) 伊藤会長あいさつ

(２) 地域振興部長あいさつ

(３) 鈴鹿市人権擁護に関する審議会について、改めて説明(事務局)

また、本日の会議が委員定数の半数以上の出席を得て成立した旨を報告する。

事項２ 議事

(１) 令和５年度人権啓発事業実施状況について

(伊藤会長)

事項書に沿って、議事を進行する。

まず、「事項２(１) 議事 令和５年度人権啓発事業実施状況について」、事務局から説明願いたい。

(事務局)

資料1「令和5年度人権啓発事業実施状況」に沿って説明を行う。

(伊藤会長)

事務局からの説明を受け、御意見・御質問をいただきたい。

(吉原委員)

まず、1ページに関連して、標語の入ったブルーのジャンバーを人権政策課職員が着用しているが、人権政策課として使用する色は決めているのか。

学校関係でいじめ反対の意思表示として、ピンクのジャンバーを着ていたりするが。

(事務局)

DV防止など、使用している色があるため、使用されていない色を選択した。

(吉原委員)

4ページで市内企業展示のCSR活動で住友電装があるが、以前の記憶では子会社がパネル展示していたと思うが、これは本社でよいのか。

(事務局)

依頼自体は本社宛てに行っているが、実際の展示のために来ていただいているのは子会社(支社)の方に展示作業を行ってもらっている。

(吉原委員)

17ページ「エ その他(ア) 学校等での啓発」について、これからもぜひお願いしたいと思う。

文化祭等で啓発しているとあるが、啓発物品等の配布はあるか。もしくは、展示のみとしているか。

(事務局)

啓発物品は今年度作成した人権三法を啓発するメモ帳を置いている。

このほか、同じくパネル展示を行っている男女共同参画課職員と各校へ出向いた際には、男女共同参画課の啓発物品としてウェットティッシュを置いている。

(吉原委員)

お尋ねした意図として、啓発物品のはけ具合によって、反応が分かるかなと思ったため、そのあたりのことを確認したかった。

(事務局)

展示場所が学校の渡り廊下という場合もあり、物品の減り方を見つつ、職員から生徒に声をかけてアンケートの記入を促すなどして、反応を見ている。

(吉原委員)

19ページの「エ 庁内放送による啓発」について、どのような内容の呼びかけを行っているか。また、1日何回放送しているか。

(事務局)

人権週間の間、1日1度であるが、毎日放送している。

世界人権宣言に触れ、人権週間の初日には「本日から人権週間である」といったものの、最終日の12月10日には「本日が人権デーにあたる」といった内容を放送している。

(吉原委員)

20ページの啓発用懸垂幕について、令和6年度からは新しく作成した懸垂幕を使用すると、先程説明があった。

前回の審議会のなかで、懸垂幕3本すべて作れるかは予算の関係上、わからないということであったと記憶しているがどうか。

(事務局)

1 本分しか懸垂幕の予算がつかなかったため、「明日も絶対会うために 戦争はくり返さない」という非核平和意識高揚を目的とした懸垂幕を優先して作成する。

(伊藤会長)

先程の話の中で、職員が着用する啓発ジャンパーの話があったが、人権政策課として作られたものか。

(事務局)

人権政策課として作成している。作成費用は課の親睦会費から捻出した。

(田中副会長)

本庁15階で非核平和都市宣言文などの展示や、人権週間中にパネル展などが行われており、良いものが展示されていると思う。

お願いになるが、展示されたときには見たいと思うので、展示する日程が近づいてきたら、予め連絡をいただくことは可能か。

(事務局)

連絡させていただく。

(山中委員)

市職員研修の後期研修において、人権大学を受講した職員が講師を行うとして、非常によい取り組みだと思う。

聞く側も大事であるが、発信する側も大事であると認識しており、発信する側には大きなプレッシャーもあり、周りから助けてもらえたりもすると思うが、準備も大変かと思う。

その中で成長していく部分もあるかと思うが、今回、講師を務めた感想を聞きたい。

(事務局)

今年度講師を務めた人権政策課職員が、本日の審議会には出席していない。

研修を行う前には、課内で研修の練習を実施しており、参加した職員らで話し合いながら、研修内容を修正して研修本番に臨んでいる。

(山中委員)

素晴らしい取り組みであるため、これからも続けていっていただきたい。

(中野委員)

1 ページ目にある「人権・平和へのメッセージ募集」について、小学生の部と中学生の部はある程度まとまった作品数の応募があったが、一般の部については12作品ということで、同じ人が2～3作品を出していることを考えると、3～4人の方から作品を選定することとなった。この数から選んでいったことについてはどうなのかと思うところがあり、今回の反省点であると思う。

前回の審議会でもお伝えしたが、過去にメッセージの募集を行った際にも非常に作品数が少なかった。そのため、どういう風に応募をかけていくかということは、事前に審議する必要があるのではないか。あるいは、一般の部は募集しないなど、よく検討する必要があると思う。

次の募集についてはしばらく間が空くが、次回行う時の課題であると思う。

じんけんフェスタ in すずかについては、去年に引き続き、「新ちゃんのお笑い人権噺」を聞かせていただき、本当にいい高座、お話であると感じた。「どこの馬の骨ともわからない」というところでは、非常に理論的でわかりやすく、実際に数字を挙げて説明されるなど、理にもかなっており、説得力を感じた。面白いなかでこういう話を聞いたのは本当に良かった。

新しい取り組みとして説明があった「平和への祈り展」での「特攻兵士 魂の叫び」の展示は、出口付近に展示されているのを見たが、ものすごく心に訴える、胸に迫るものがあった。

ただ、せっかくいいものが並んでいるのに、展示場所が出口付近であったため、帰りがけに素通りされる来場者がいたのが非常にもったいなく、残念であった。もう少し見せる工夫などあっても良かったと感じた。

(田中副会長)

じんけんフェスタ in すずかではたくさんの企業、各課の展示があったと思うが、引き続き、続けていただきたい。

人権政策課だけで人権啓発しているのではなく、市内の企業や関係各課が展示を出すことによって、いろいろなところへの啓発につながっていくと思う。参加する企業を増やしてもらい、みんなで人権を盛り上げていく形にしていっていただきたい。

イベントでの展示というコラボによって、私は全市的に対して効果があると思う。見応えのある展示も多くあるので、ぜひお願いしたい。

(喜田委員)

いつもイオンモールで開催される「平和への祈り展」に参加している。今年については、講演会で講師に大学生の方がみえたと思うが、若い方も頑張ってみえるのだと感じた。

ただ、聴講者が少ないのがとても残念であった。具体的な案は示せないが、もう少し皆さんにPRできる周知方法があるといいと思う。

令和3年度の平和への祈り展では、いわさきちひろさんの展示をテーマにされ、来場者がすごく多かったと思う。

肌感覚ではあるが、今回は来場者数が少なかったので、「良いことをしているのにもったいないな」と感じた。PR方法としては、有名な人や物を題材とした方が良いのだろうか。また、来場者自身も頑張ってみなければいけないとも感じた。

また、私は会場の展示をざっとしか見れておらず、「特攻兵士 魂の叫び」については、見そびれてしまったため、もったいないことをしたと思う。

(伊藤会長)

予算の関係もあり、良い集客方法を考えるということは難しいことだと思う。

一点、13ページの「オズの魔法使い」の部分で、「申込人数が多い分、申込みの受付処理や、当選者へのチケット送付、回収したアンケートの入力等、事務作業の負担も大きかった。今後、同規模のイベントを実施する際には、二次元コードを利用した申込受付やアンケート等を検討する必要がある」とあるが、これは実現しそうか。

予算の関係もあり、難しい問題ではあるだろうが、実現できればいいと思う。

（事務局）

アンケートの入力フォームについては、現在、職員でも試験的に作成できるような状況ではあるが、どのように活用していくかは個人情報保護の観点から取り扱いを協議中である。

申込みに関して、キャンセルの連絡があった際は、抽選に外れた方に対して、繰り上げ当選の連絡をしたり、当日券の案内をしたりする等の対応を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、座席を指定しているため、実際公演が始まると、後ろの座席に多くの参加者が座っているが、前の座席は空いているという状況になることもある。

過去に実施していたように整理券を配布し、先着順で好きな席に座っていただくという方法もあるが、その場合、早くから並んでいただく必要がある。この点も併せて今後、検討する必要がある。

（伊藤会長）

配布資料「資料 5 令和 5 年度市職員研修資料」にあるそれぞれの研修資料は「資料 1 令和 5 年度人権啓発事業実施状況」の 21～23 ページに記載してある、研修のどれにあたるか。

（事務局）

「資料 5」の 1 つ目の「差別問題理解の基礎基本－部落差別解消推進法に学ぶ－」というタイトルの資料は、「資料 1」の 21 ページ「ア 新規採用職員研修（ア）前期研修」にあたる。

2 つ目の「令和 5 年度新規採用職員研修－近年の社会動向に見る人権－」というタイトルの資料は、「資料 1」の 21 ページ「ア 新規採用職員研修（イ）後期研修」にあたる。

3 つ目の「部落差別の現状と課題－客観的データや具体的な事例から現実と向き合うこと－」というタイトルの資料は、「資料 1」の 22 ページ「イ 職員人権研修」にあたる。

4 つ目の「ハラスメントのない職場づくりのために～知っておきたいこと、気をつけたいこと。男女共同参画の視点から～」というタイトルの資料は、「資料 1」の 23 ページ「ウ 人権啓発推進委員研修」にあたる。

（伊藤会長）

以前から、職員研修がどのような内容であったかという疑問が当審議会が出てい

たため、研修資料を用意していただいた。ただし、資料の取扱いに注意しなければならない点があるということだが。

（事務局）

参考資料として配布しているが、それぞれの講師の研修資料であるため、二次的な使用は控えていただくようお願いしたい。

（田中副会長）

先ほど、集客についての話が出たが、2022年の「人権問題に関する三重県民意識調査」の中で、「講演会を何で知りましたか」という項目があり、その結果では、「パンフレットで知った」という回答が一番多いようである。

そのような資料を周知方法の参考にしていただければと思う。

（伊藤会長）

せっかく良い企画をしてもなかなか人が集まってくれないという現状がある。

岩間委員は、参加者を集める良い方法について何か知っていることはあるか。

（岩間委員）

「資料1」の19ページにあるように、今回「ジェンダー平等推進委員会」の中で人権に関する研修を実施していただいた。

元々この組織は、一昨年まで「女性委員会」という名称で活動していたが、日本はジェンダーギャップ指数がとても低く、男女平等の取り組みが加速する中で、「女性」という言葉がつくことについて改めて検討し、「ジェンダー平等推進委員会」に名称を変えた。

人権に関する研修については、おそらく、現在の連合三重の事務局長が、過去に行政職員であったこともあり、事務局長のつながりでこのような取組を進めることができたのだと思う。

このように、人のつながりを上手く活用できるのではないかと思う。

また、じんけんフェスタ in すずかについても、募集案内が連合三重にも来ているが、労働組合を通じて、いろいろなところに情報をつなげることはでき、興味を持ってもらえる機会にもなると思う。

開催規模に関わらず、連合三重にチラシ等を送っていただければ、各企業の労働組合のつながりを通じて情報発信をすることができる。興味を持ってもらえる方を増やすためにも、取組の一つとして検討していただければと思う。

(伊藤会長)

ありがとうございます。大変心強い。

(田中副会長)

最近「出前授業」というものがある。職員数が少なく、なかなか外へ出られないということもあると思うが、イベントではなく、出前授業という形でこちらから学校に向き、人権の話をさせていただくというのはどうか。

集客をしなくても、例えば高校であれば、全校生徒数は数百人、1 クラスでも40人ほど生徒がいる。学校の人権の授業を人権政策課が代理で行う形で出前授業を実施すれば、集客をせずに多くの人に啓発ができる。

一つのアイデアであるが、コラボを増やすような形で、実施できれば良いと思う。

(中野委員)

鈴鹿国際交流協会では、実際に出前授業を実施している。旭が丘小学校では、127人の児童を対象に、「人権を含めた外国人との共生」というテーマで、一ノ宮小学校では「人権」というテーマで出前授業を実施した。

「外国人の視点」というテーマが中心になるが、時間をいただいて 2 クラスで実施した。比較的毎年度実施しているため、声をかけていただければ、どこにでも出向いて出前授業をさせていただく。

(吉原委員)

出前授業について、事前に人権政策課と何か連絡をとるのか。

また、児童に啓発物品は配布するのか。

せっかくの機会なので、人権政策課と連携して、児童に啓発物品を配布できれば良いと思う。

(中野委員)

学校から直接依頼がくるため、人権政策課とは連絡はとっていない。

また、啓発物品は配布していない。

もし、人権政策課で配布してもいい啓発物品があれば配布させていただく。

(吉原委員)

人権政策課、教育委員会、鈴鹿国際交流協会の間でもっと連携をとっていただければと思う。

「資料 1」の 4 ページ「市内企業のCSR活動」として「旭化成株式会社」「住友電装株式会社」「本田技研工業株式会社」が挙げられているが、じんけんフェスタ in すず

かの市内企業によるパネル展示は、長年この 3 社のみで、増えていないように感じる。

先ほど、岩間委員がおっしゃっていたが、岩間委員の会社でも様々な活動をされていると思う。

例えば、パネル展示に参加していただいたり、労働組合のつながりを通じて他の企業にお声がけいただいたりする等、ぜひ展示規模を広げていただければありがたいと感じる。

（岩間委員）

おっしゃるとおりで、連合三重鈴鹿地域協議会では、四役単組という 4 つの単組が役員をやっている。この 3 つの企業はパネル展示をしているのに、なぜうちの会社は展示をしていないのかと不思議に思った。

これは、企業側からパネル展示に参加したいと市に依頼をしているのか、または、市から展示の案内があるものの、企業がそれを断っているのか、どちらかわからないが、もし後者であれば、企業の啓発活動にもなるため、会社の総務に話をさせていたきたいと思う。

（安村委員）

今年度の行事に参加させていただいたが、イオンモールで開催された平和への祈り展について、個人的に民生委員の役員に声をかけ、何人かに来ていただいた。民生委員は 300 人ほどいるので、民生委員の役員会でイベントの案内をしていただければ、もう少し人が来ていただけたと思う。

実際に私が誘った人は「とても良かった」と言っていた。今後、お声がけいただければ、民生委員も足を運び、平和への願いを実感していただけたと思う。

（伊藤会長）

広報や HP だけに広く情報を出せばいいという訳ではなく、個別にポスティングをするように、個人に合わせないといけないのかなと思う。

（田中副会長）

口コミというのは大切で、人と人とのつながりや密接な会話の中で「これいいよ」という一言があれば、興味を持っていただき参加してもらえる。口コミは人と人との信用から広がっていく。

知らない人から言われるより、コミュニケーションの中で言ってもらうことで、口コミが広がっていくと思う。

(伊藤会長)

色々な御意見をいただいたが、いかがか、他よろしいか。

以上、令和5年度人権啓発事業実施状況について、報告いただいた。

事項3 その他

(伊藤会長)

「事項書3 その他」ということになるが、いかがか。

(事務局)

事務局から、令和6年度第1回審議会の日程について、次回の審議会は5月の開催を予定しており、日程について、会議室予約の都合上、5月15日(水)、5月16日(木)、5月22日(水)、5月24日(金)、5月29日(水)、5月30日(木)、の6日間を候補日としている。現時点で御予定あるようならお知らせいただきたい。

また、後日改めて調整の上、連絡するので、よろしくお願いしたい。

(伊藤会長)

開催時間は午後でよいか。

(事務局)

基本、午後を予定している。

(議長)

以上をもって本日の議事は終了する。

地域振興部次長の閉会のあいさつ

閉会